

LGBT，特に性同一性障害/性別違和の子どもや関係者への 情報提供についての研究

研究分担者 中塚 幹也（岡山大学大学院保健学研究科）

研究要旨

性同一性障害当事者の約9割は子どもの頃に、自身の性別違和感を周囲に告白することができず、その約6割がそのことを後悔している。このため、教職員や保護者に適切な情報を提供し、差別や偏見をなくし、言い出しやすい環境を作ること、また、医療員つなげる体制を確立する必要がある。

1906名の教員を対象とした研究では、性同一性障害/性別違和の子どもと実際に接した教員は16.4%、性別違和感を持つと思われる子どもと接点があった教員も34.0%と高率であった。体育及び保健体育で別メニューを設定すること(41.1%)、受容していない保護者に理解を求めること(38.5%)などは困難との回答が高率であった。自殺未遂(78.6%)、自殺念慮(76.8%)、うつ(76.0%)、二次性徴の悩み(72.3%)、不登校(71.2%)、悩んでいるが性同一性障害かどうかわからない場合(66.6%)は医療と連携すべきと回答していたが、医療との連携が「困難」「どちらかといえば困難」との回答は59.4%であった。

これらの結果、また、研究者が過去に行ってきた日本人の性同一性障害当事者を対象とした心理的、身体的研究の結果、意識調査の結果などをまとめ、情報提供のための資料集を作成した。

A．研究目的

性を決定する要素には、身体の性、性自認(心の性)、性的指向(好きになる性)、性役割などがあり、これらの要素のうちのいずれかが多数派と異なる人々は「性的マイノリティ」、あるいは、「LGBT」(性的指向において少数派であるL(レズビアン)、G(ゲイ)、B(バイセクシュアル)に、性自認において少数派であるT(トランスジェンダー)を加えたという言葉)。また、性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字を合わせた SOGI という言葉もある。LGBT 当事者は約8%(13人に1人)とされ、自殺企図、不登校、うつなどの発生率は高い。

2015年、文部科学省は「性同一性障害の児童生徒に対するきめ細かな対応を」と通知し、具体的な対応例を述べ、「教員研修」「チームで

の支援」「医療機関等との連携」の重要性を指摘した。また、性同一性障害のみではなく、性的マイノリティの子ども全体への配慮についても初めて言及した。しかし、性同一性障害当事者の約9割は子どもの頃に、自身の性別違和感を周囲に告白することができず、その約6割がそのことを後悔していた。「自分が何者かわからない」「いじめられるかもしれない」「周囲の大人に話しても理解してもらえない」などの思いを持っている。特に、思春期は二次性徴による身体の変化を伴うため自殺念慮や不登校が発生しやすくなるが、対応されていないことが多い。医療とつながることができれば、二次性徴抑制療法、精神支援などの緊急対応が可能になる。

このような性同一性障害/性別違和の子どもへの支援のためには、当事者、その周囲の子ど

も、そして、教職員や保護者に適切な情報を提供し、差別や偏見をなくし、言い出しやすい環境を作ること、また、biopsychosocial な多角的な視点を備えた医療保健体制を確立し、医療的な対応につなげる必要がある。

B．研究方法

教職員や大学生を対象とした実態調査、意識調査を実施した。また、研究者が過去に行ってきた日本人の性同一性障害当事者を対象とした心理的、身体的研究の結果、意識調査の結果などをまとめ、情報提供のためのデータ集を作成した。その一部を、子ども向けの情報提供の本として出版したり、教職員や医療・保健関係者向けの資料として提供したりした。

(倫理面への配慮)

各種のデータ収集は、所属機関の倫理審査委員会、利益相反 (conflict of interest : COI) 委員会の承認のもと行った。

C．研究結果

2018年7月までに開催された各種研修会に参加した教員のうち、同意の得られた1906名を対象とした研究では、2015年の文部科学省の通知を「知らない」との回答は37.4%であった。教員になってから、性同一性障害/性別違和の子どもと実際に接した教員は16.4%、性別違和感を持つと思われる子どもと接点があった教員も34.0%と高率であった。

学校で対応困難と考えることとして、体育及び保健体育で別メニューを設定すること(41.1%)、受容していない保護者に理解を求めること(38.5%)などが高率に挙げられた。通知を知らない教員は、水泳や修学旅行への対応を「不要」あるいは「困難」と考える傾向にあった。

性同一性障害の医療的支援である二次性徴抑制療法の認知度は19.9%と低率であった。医療施設と連携すべきと思う子どもの状態は、自

殺未遂(78.6%)、自殺念慮(76.8%)、うつ(76.0%)、二次性徴の悩み(72.3%)、不登校(71.2%)、悩んでいるが性同一性障害かどうかわからない場合(66.6%)であった。性別違和感を持つ子どもに接した教員のうち「医療との連携の経験がある」のは14.4%であった。医療との連携が「困難」「どちらかといえば困難」との回答は59.4%であり、特に養護教諭や20代の教員は連携を困難に感じる傾向にあった。その理由として、専門医が近隣にいない(19.4%)や、近隣にいるか不明(11.1%)などが高率であった。

専門医への相談の際に必要なことは、本人の希望(74.9%)、保護者の同意(65.0%)が高率であった。専門医に期待することは、教員研修の講師(69.3%)、当事者の保護者への説明(69.2%)などが高率であった。

D．考察

文部科学省の通知の認知度は約6割と十分ではなかったが、通知を知っている教員は、性別違和感を持っている児童生徒の存在に気づきやすく、児童生徒の相談相手となっていた。文部科学省の通知についての啓発は必要であると考えられる。

多くの教員が自殺企図や自殺念慮、うつに関して医療施設と連携すべきであると回答していたが、医療施設との連携に困難さを感じていた。学校保健、医療が連携しやすい体制を作る必要がある。また、二次性徴抑制療法などの医療的支援への認知度は低く、教員には医療的支援への理解を深め、当事者や保護者への情報提供を行い、医療施設につなげる役割を担ってもらう必要がある。

学校における具体的対応、また、保護者への対応などの中にも、教員が対応困難な内容が存在しており、LGBT、特に性同一性障害/性別違和に関する知識や経験を持つ医療・保健の専門家が関与して、ガイドラインやマニュアルを作成し、子どもと家族への支援、また、教職員

への支援を行うことが重要である。

E．結論

LGBT、特に性同一性障害/性別違和当事者である子どもや家族、教職員が現在、課題を抱えている課題を解決するためには、小児期～成人期に至る切れ目のない情報提供、多職種による医療保健体制を確立する必要がある。今回、明らかになった視点で、情報提供の内容、多職種による保健活動・医療のガイドラインやマニュアル作りを行うことが重要である。

今年度は、これらのデータや研究者による過去のデータをまとめ、LGBT、特に性同一性障害/性別違和当事者である子どもや保護者、教職員などへの情報提供用のデータをまとめ、一部は、本、論文、新聞報道等により発表した。

F．研究発表

1．書籍・教科書

1. 中塚幹也(監修): 個「性」ってなんだろう?
中塚幹也(監修), 東京都, あかね書房, 1-112, 2018.
2. 中塚幹也: ライフプランを考えるあなたへ - まんがで読む - 未来への選択肢 < 拡大版 > .
岡山大学大学院保健学研究科編, 岡山市, 岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室, 1-53, 2019.
3. 中塚幹也: 第一章～思春期～ 8 同性愛、多様な性のあり方. 女と男のディクショナリー HUMAN+改訂第二版. 日本産科婦人科学会編, 神奈川県, 公益社団法人日本産科婦人科学会, P24, 2018
4. 中塚幹也: 第一章～思春期～ 9 性同一性障害. 女と男のディクショナリー HUMAN+改訂第二版. 日本産科婦人科学会編, 神奈川県, 公益社団法人日本産科婦人科学会, P25, 2018.
5. 中塚幹也: 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 2 節セクシュアリティとジェンダー. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 32-33, 2019.

6. 中塚幹也: 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 4 節性分化疾患. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 36-36, 2019.
7. 中塚幹也: 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 5 節性意識の発達. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 37-37, 2019.
8. 中塚幹也: 2 章リプロダクティブヘルスに関する概念 6 節性同一性障害. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 38-41, 2019.
9. 中塚幹也: 6 章生殖に関する生理 1 節女性の生殖器. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 98-102, 2019.
10. 中塚幹也: 6 章生殖に関する生理 2 節男性の生殖器. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 102-103, 2019.
11. 中塚幹也: 6 章生殖に関する生理 6 節性行動、性反応. ナーシング・グラフィカ母性看護学 概論・リプロダクティブヘルスと看護. 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編, 大阪市, (株)メディカ出版, 114-118, 2019.
12. 中塚幹也: 第 5 章性の多様性「1 性同一性障害」. 助産師基礎教育テキスト 2019 年版. 吉沢豊予子編, 東京都, 日本看護協会出版会, 208-220, 2019.
13. 中塚幹也: 第 5 章性の多様性「2 性分化疾

- 患」。助産師基礎教育テキスト 2019 年版。吉沢豊予子編，東京都，日本看護協会出版会，221-230，2019。
14. 中塚幹也：第 5 章性の多様性「3 同性愛」。助産師基礎教育テキスト 2019 年版。吉沢豊予子編，東京都，日本看護協会出版会，231-234，2019。
15. 中塚幹也：性分化疾患と性同一性障害。今日の治療指針。私はこう治療している 2019 年版 (Volume61)。福井次矢、高木誠、小室一成編，医学書院，東京都，1310-1312，2019。
16. 中塚幹也：性分化疾患と性同一性障害。今日の治療指針私はこう治療している 2019 年版 (ポケット判)。福井次矢、高木誠、小室一成編，医学書院，東京都，1310-1312，2019
- ## 2. 論文発表
1. Shinohara Y, Nakatsuka M.: Descriptive Study of Gender Dysphoria in Japanese Individuals with Male-to-Female Gender Identity Disorder. Acta Med Okayama 72(2),143-151, 2018。
2. 櫻野千明, 瀬尾奏衣, 周宇, 新井富士美, 中塚幹也: "性同一性障害当事者における「特別養子縁組」や「生殖医療」により子どもを持つことへの意識"。G I D (性同一性障害) 学会雑誌。11(1),115-128, 2018。
3. 瀬尾奏衣, 周宇, 櫻野千明, 新井富士美, 中塚幹也: ジェンダークリニックを受診する性同一性障害当事者における戸籍上の性別変更のための手術要件への意識。G I D (性同一性障害) 学会雑誌。11(1),129-144, 2018。
4. 周宇, 南原あかり, 櫻野千明, 瀬尾奏衣, 中塚幹也: 高校生, 大学生における LGBT に関する知識と意識。G I D (性同一性障害) 学会雑誌。11(1),157-167, 2018。
5. 中塚幹也: 配偶子保存の必要性和課題: 配偶子凍結に伴う倫理的問題。臨床婦人科産科。72(5),424-428, 2018。
6. 中塚幹也: 新連載: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT, トランスジェンダーって何?」。臨床助産ケア。10(3),82-85, 2018。
7. 中塚幹也: Special Report L G B T の基礎知識と性同一性障害診療の実際。Schneider。 (107),3-6, 2018。
8. 中塚幹也: 連載第 2 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「子どもの頃の LGBT 当事者」。臨床助産ケア。10(4),72-75, 2018。
9. 中塚幹也: 性同一性障害への性別適合手術の保険適用の意義と今後の課題。月刊保団連。(1276),39-43, 2018。
10. 中塚幹也: 連載第 3 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「思春期の性同一性障害の子どもとホルモン療法」。臨床助産ケア。10(5),96-99, 2018。
11. 中塚幹也: 連載第 4 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「性同一性障害診療における看護スタッフの役割」。臨床助産ケア。10(6),103-106, 2018。
12. 中塚幹也: "特集: 思春期にまつわる最近の話題 13. 思春期における性同一性障害"。産科と婦人科。85(12),1491-1495, 2018。
13. 中塚幹也: 連載第 5 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「性同一性障害診療を行う外来の環境整備」。臨床助産ケア。11(1),100-104, 2019。
14. 中塚幹也: 連載第 6 回: 助産師・看護師に知ってほしい LGBT の基礎知識「LGBT を性教育で取り上げる」。臨床助産ケア。11(2),76-80, 2019。
15. 中塚幹也: 性同一性障害に関する診療～保険収載時代への適合～。日本産婦人科医会報。70(7),10-11, 2018。
16. 中塚幹也: 文科省通知(2015 年)に至るまで。G I D (性同一性障害) 学会雑誌。11(1),55-56, 2018。
17. 中塚幹也: GID 学会の現在の課題と未来への展望。G I D (性同一性障害) 学会雑誌。

11(1),71-74, 2018.

18.中塚幹也：性同一性障害(GID)診療を取り巻く最近の状況 - 専門知識を持っておこうと思う方へ - .日本女性医学学会ニューズレター .24(2),10, 2019.

2.学会発表

1.中塚幹也：<シンポジウム>「性同一性障害診療を取り巻く課題と今後の展望」第114回日本精神神経学会 委員会シンポジウム 12 性同一性障害 / 性別違和をめぐる最近の動向 ~歴史的な変遷を踏まえて~.平成30年6月21~23日.神戸国際会議場 / 神戸国際展示場 / 神戸ポートピアホテル.

2.中塚幹也：<理事長講演>「GID学会の現況と提言」GID(性同一性障害)学会第21回研究大会.平成31年3月23~24日.岡山県医師会館

3.中塚幹也：<講演>「性別適合手術の保険適用：安全性と有効性の担保に向けての取り組み」第61回日本形成外科学会総会・学術集会 特別パネルディスカッション4 性別適合手術に対する保険適用 これまでの流れと今後の課題 .平成30年4月11~13日.ホテルニューオータニ博多・電気ビル(共創館・本館).

4.中塚幹也：<講演>「性別適合手術の保険適用と性同一性障害特例法の現状と課題について」LGBT(性的少数者)に関する課題を考える議員連盟 総会.平成30年4月20日.衆議院第1議員会館

5.中塚幹也：<講演>「LGBTの基礎知識と職場での課題」.第91回日本産業衛生学会 教育講演5.平成30年5月16~19日.熊本市市民会館1F 大ホール.

6.中塚幹也：<講演>「LGBTの基礎と学校における子どもへの対応」.平成30年度中国地区学校保健・学校医大会.平成30年8月19日.鳥根県松江市 サンラポーむらくも.

7.中塚幹也：<講演>「LGBTの理解と支援に

ついて」.平成30年度 三原市学校保健会総会.平成30年8月24日.三原市役所城町庁舎.

8.中塚幹也：<講演>「LGBTの基礎知識と医療的支援」.第49回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会 ランチタイムミニレクチャー.平成30年9月20日.岡山コンベンションセンター.

9.中塚幹也：<講演>「LGBTの基礎知識と医療の実践」.第59回日本母性衛生学会 教育講演1.平成30年10月19~20日.新潟コンベンションセンター(朱鷺メッセ).

10.中塚幹也：<講演>「LGBTの基礎知識と性同一性障害診療の実践」.平成30年度香川県医学会.平成30年10月21日.香川県善通寺市市民会館.

11.中塚幹也：<講演>「LGBTを理解し伝えるために」岡山県中学校教育研究会 人権教育部会 第33回 研究発表大会.平成30年11月9日.建部町文化センター.

12.中塚幹也：<講演>「LGBT当事者と「生殖医療で子どもを持つこと」全国調査2016,および,性同一性障害当事者への調査から」.岡山大学大学院保健学研究科 第10回 生と死の倫理シンポジウム 様々な家族のカタチ 「LGBTと家族形成」.平成30年12月22日.岡山大学鹿田キャンパス 臨床第1講義室

13.新井富士美、中塚幹也：<一般演題>「思春期の性同一性障害当事者に対する二次性徴抑制療法と反対の性ホルモン治療」第70回日本産科婦人科学会.平成30年5月10~13日.仙台国際センター

14.服部瑠衣,石岡洋子,片岡久美恵,中塚幹也：<一般演題>「学校における性同一性障害の子どもへの対応と医療との連携」.第59回日本母性衛生学会.平成30年10月19~20日.新潟コンベンションセンター(朱鷺メッセ).

15.瀬尾奏衣,広保沙紀,平千紘,安村朋姫,舟田瑞希,山本友里恵,石岡洋子,片岡久美

- 恵, 中塚幹也: <一般演題> 「性同一性障害当事者における「特別養子縁組」や「生殖医療」により子どもを持つことへの意識」. 第 59 回日本母性衛生学会. 平成 30 年 19 ~ 20 日. 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ).
16. 南原あかり, 細木菜々恵, 田崎史子, 片岡麻美, 千葉智美, 為定春奈, 中塚幹也: <一般演題> 「LGBT に関する高校生, 大学生の知識と意識」 第 59 回日本母性衛生学会. 平成 30 年 10 月 19 ~ 20 日. 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ).
17. 細木菜々恵, 田崎史子, 為定春奈, 片岡麻美, 南原あかり, 千葉智美, 中塚幹也: <一般演題> 「卵子提供により子どもを持つこと」に対する大学生の意識」. 第 59 回日本母性衛生学会. 平成 30 年 10 月 19 ~ 20 日. 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ).
18. 須崎かな, 難波瑞穂, 高橋麻友, 東田明日香, 中塚幹也: <一般演題> 「性の多様性と家族形成への意識」. 岡山県母性衛生学会. 平成 30 年 10 月 27 日. 岡山県看護会館
19. 難波瑞穂, 須崎かな, 高橋麻友, 東田明日香, 中塚幹也: <一般演題> 「トランスジェンダー当事者の部活動またはサークル活動」に対する大学生の意識」. 岡山県母性衛生学会. 平成 30 年 10 月 27 日. 岡山県看護会館.

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし